

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070201825		
法人名	ケアサプライシステムズ株式会社		
事業所名	グループホームさんご		
所在地	群馬県高崎市石原町4273-1		
自己評価作成日	平成26年6月19日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県前橋市富士見町小暮 704-2
訪問調査日	平成26年7月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホーム周辺さらに住宅も増え、近隣の方々との出会いも多くなり、お花も近くで楽しむことができ、車も少なく散歩コースも安全です。
夜間は町のネオンを窓越しに見物でき、自治会も近くで便利です。
また、ギター演奏、保育園、踊りの会等の皆様には、変わりなく協力いただいております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念に掲げられている「私たちは、利用者様がそれぞれの人生の中で培って来られた経験や知恵を尊重する視点(中略)」が職員間で共有され、尊重しつつ笑顔での会話と対応に繋がり、そこから利用者の笑顔が生まれ、安心感を持って穏やかに過ごされている様子がうかがえる。管理者が自治会の班長として会議に参加しており、地域との連携や情報交換が密に行われることから、「さんごだより」を回覧板で知らせたり、いきいきサロンへの参加及び地域ボランティアグループや保育園児の受入れ等、自然な形で利用者と地域住民との交流が図れている。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	掲示しており、朝の申し送りや職員会議の前に唱和している。	事務所・玄関等に掲示しており、毎朝申し送り時に唱和して確認合っている。理念にそぐわないような際には管理者がその都度注意している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に班として入っている。便りの配布、いきいきサロンに参加。	地域のボランティアグループ(ギター・笛の演奏・踊りの会)が定期的に訪問したり、保育園児の慰問等行われている。また、「いきいきサロン」に参加している。管理者が自治会の班長として地域の会議に参加する等で交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	亜矢の会の皆様が練習がてら踊りを見せて下さっている。 AED設置も伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動状況を報告、意見を聞いている。入居者様も参加している。	家族・利用者・民生委員・市担当者・法人課長・管理者等参加で年6回開催されている。施設の事業や状況報告を行い、意見・質問等を聞きサービスの向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故報告書の提出などさせていただいている。ホーム便りも渡している。	「さんごだより」を定期的に市窓口に渡している。相談事等、施設の担当課長が市に出向き、管理者に伝えている。また、市事業である介護相談員を受け入れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員理解している。拘束はしていない。 玄関も開けられる日数が多くなっている。	虐待防止責任者を設け職員会議等で話し合い、拘束しないケアを目指している。玄関の施錠については時間帯や日数を考慮している。利用者の状態により布団に鈴を付けている。	玄関の施錠については、今後も検討の継続をお願いしたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議の中でも話し合い、十分注意し理解している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在活用なし。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明し納得いただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様の会話の中や家族様にアンケートを出し、意見をいただいている。 介護相談員も入っている。	面会時や毎月利用料支払いのための訪問時等に意見を聞いている。3ヶ月毎に家族個人面談を行っている。また、年1回アンケートを実施し、内容や回答等については運営推進会議で伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常業務の中や申し送り時、職員会議などで聞いている。	職員用の「業務日報」に自由に記載したり、毎月の職員会議等で意見を出し合っている。日常的にも管理者が聞くよう心掛けている。勤務表作成時には希望休(月2回)等、確認し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人員確保など努めてくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	取り組みをしてくれている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡協議会を通じたり、系列ホームとの研究発表会などで、向上に取り組んでいる。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	要望を聞き、安心の確保に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今までの生活の様子を聞きながら、良い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族様の要望を基に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	献立を聞いたり、食器洗い、シーツ交換、洗濯物たたんだり、職員と共にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	推進会議、家族会議、ホーム行事に協力があり、誕生日の連絡もしている。 散歩、受診、マッサージなど支えて下さっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、知人、親戚の来苑あり、ホールや居室にて寛いでもらっている。	家族と共に馴染みの美容院へ行ったり、お墓参りに出かける人もいる。知人や兄弟等の面会時はお茶を提供し、居室やホール等で自由に寛げるよう務めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	精神状態も考えながら、気の合う同士と一緒に席にしたり、良い関係になるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	定期的に花や、清拭用布、メモ用紙を届けて下さっている家族様あり。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族様に聞いたり、日常の会話や観察の中から把握している。	職員が担当制になっており、個別にアセスメント等実施している。日常の会話や何気ない一言及び様子から意向等汲み取っている。家族面談時はケアマネジャーも同席し、希望を確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今案での生活暦を基に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	把握している。力量に応じて支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個別にカンファレンスしている。家族様に聞いている。	毎月のモニタリングやカンファレンスを基に3ヶ月毎に定期的な介護計画の見直しが行われている。状態変化等の際には随時見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録に記載、共有し見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況に応じ、家族様の要望にも取り組んでいる。(マッサージされている方もいる)		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会、いきいきサロン参加、盆踊り、御興見物など支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、かかりつけ医は家族様に決めてもらっている。 ホームの協力医は月2回往診してもらっている。	入居時に説明し、選択してもらっている。特定の疾患の場合は受診継続の人もある。協力医による往診は月2回。訪問歯科は希望に応じて対応している。今後は口腔ケアも重視していく予定である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携訪問看護師に伝えているやり取りのノートもある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人の状態を観ながら、家族様の希望も考え、相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	指針は出している。 見極めは家族様と話し合い共に考えている。	契約時に指針を基に説明している。希望に対応して行きたいと考えているが、現在は協力医との連携確認が困難なため、看取りケアの実施については検討中である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AED設置、マニュアルあり、普通救命講習も受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は毎月実施、通報装置設置あり、職員・家族様への連絡網あり。	H25年8月5日(日中)・H26年4月30日(夜間想定)消防署立会の下、避難・誘導訓練を実施。自主訓練は毎月実施。自動通報装置に地域住民を入力し、訓練にも参加している。AED装置あり。備蓄として水・カップメン・米等、3日分は用意している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常十分注意し、職員会議の中でも話し合っている。(入浴、トイレ、居室)	声掛けやトイレ誘導の際は工夫する等、特に注意している。対応等、気付いた時は職員間で注意し合っている。呼称についても家族に確認している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	場面づくりしている。 (食事、入浴、誕生日会)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望は聞いている。 ドライブ、散歩、花見など支援。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張理容師あり。 外出や行事の時、口紅や洋服の支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	力量に応じ支援している。 (下膳、台拭き)	週2回配食業者からのメニューであるが、それ以外は希望を取り入れている。季節の物(お節・おはぎ)や希望によるカツ丼・天丼・刺身等提供している。利用者がテーブル拭きや下膳をしたり、職員も会話しながら一緒に食べていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後、摂取表をつけ、バランスを把握している。毎週、木金は宅配食材を使用。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個別に夜間はポリデントしている。口腔シート使用もあり。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を基に支援している。	排泄チェック表を基に個別のパターンに応じて声掛けや誘導を行っている。布パンツ及びリハビリパンツとパット使用者が多い。失禁時にはさりげなくトイレに誘導して交換している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜、乳製品など支援、主治医に相談、内服薬も支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日、入浴の体制はある。希望や体調観ながら個別に支援している。	毎日、午後の時間帯で希望等聞きながら支援している。拒否者には時間や職員を換えたり、声掛け等工夫している。状態に応じて2人介助の人もある。足浴や季節のゆず湯・菖蒲湯等、楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝、起床も個別支援。 テレビ、音楽、ラジオも聴いて安眠につなげている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報にて理解あり。 変化ある時は、主治医の指示を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	力量に応じ、洗濯物たたみ、食器洗い、リネン交換など一緒にしている。 行事やボランティアさんの来苑で楽しまれている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望、体調を考え、ドライブ、散歩、買い物など支援している。家族様とも出かけられている。	日常的には近隣の公園へ散歩に出かけている。希望によるスーパーやデパート等への買物支援。毎月行事として、季節のお花見等に出かけている。また、法人として家族を交えてのバス旅行や食事会等、予定している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様より預かり、外出時や出張理容の支払など、力量に応じ支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話があった時は、事務所にて話される。年賀状の支援もしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を生けたり、夏にはスダレを掛けたり、壁面にも季節感を出している。	季節の七夕飾りの短冊に利用者の願い事の記入や生花がいけてある。テーブルが3ヶ所に配置され、ソファや畳のスペースが設けられている等、心地よい環境づくりがなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや好みの場所で、テレビを観たり話をされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の希望に合わせ、家族様と相談させて頂いている。 (タンス、テーブル、机、ラジオ等)	家族の写真・テーブル・椅子・整理ダンス・ラジオ・書籍等、個別に馴染みの物が持ち込まれており、安心して過ごせるような居室づくりへの工夫がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口には名前をつけてある。 トイレ、風呂場も分かり易くしてある。 洗面所にはペーパータオル、ピュアウォーターも設置してある。		